

風水害

大雨情報をキャッチ！

こんなときの
わが家の安全対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

レベル5 大雨特別警報

大雨により重大な災害の起こるおそれが著しく大きいと予想される場合に発表する警報
命の危険 直ちに安全確保！

レベル4 大雨危険警報

大雨により重大な災害の起こるおそれが大きいと予想される場合に発表する警報
危険な場所から全員避難

レベル3 大雨警報

大雨により重大な災害の起こるおそれがあると予想される場合に発表する警報
避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など

レベル2 大雨注意報

大雨により災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報
避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）

気象防災速報 (記録的短時間大雨)

大雨警報が発表されているときに、数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測、または解析したことを発表する情報

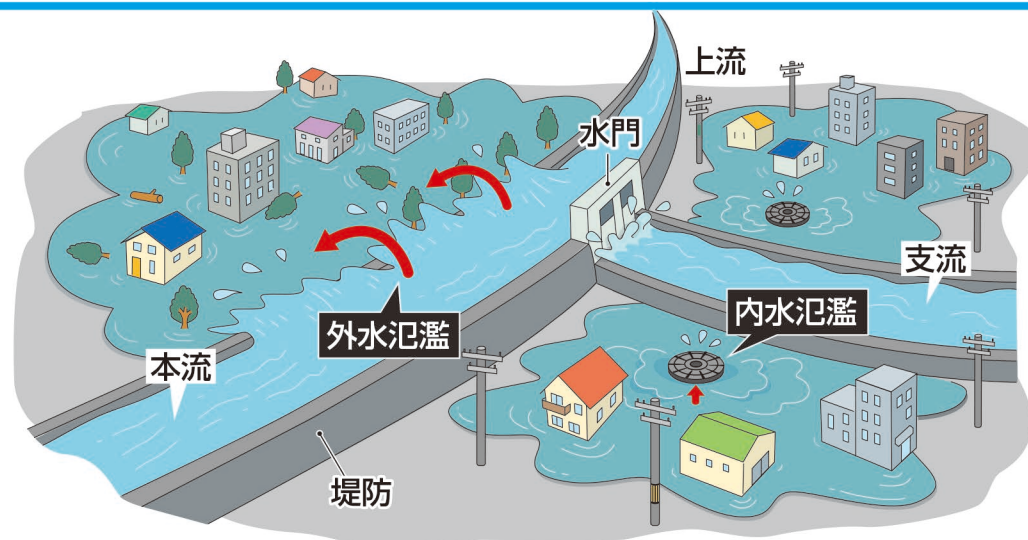
気象防災速報 (線状降水帯発生)

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報

氾濫の種類

外水氾濫

河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破堤するなどして堤防から水があふれ出す。

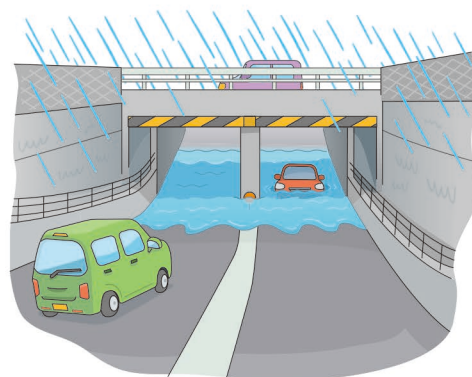


内水氾濫

下水道・支川等の雨水排水能力を上回り浸水する。あるいは河川水位の上昇により、下水道・支川等から河川へ放流できず浸水する。

集中豪雨

前線や低気圧などの影響や雨を降らせやすい地形の効果によって、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより起こる集中豪雨では、激しい雨が数時間にわたって降り続き、狭い地域に数百mmの総雨量となります。大雨によって河川の氾濫や土砂災害が発生しています。

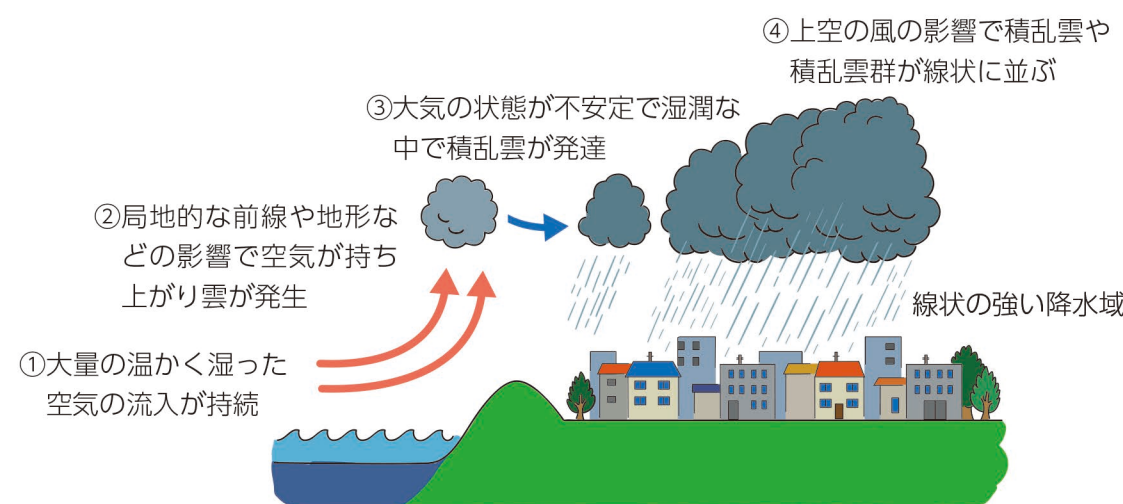


アンダーパス
(地下道)
にも注意！

前後区間と比べて急激に道路の高さが低くなっている区間を「アンダーパス」と呼んでいます。アンダーパスに設置した排水ポンプの能力を超える大雨となった場合、アンダーパスに水がたまってしまいます。

線状降水帯

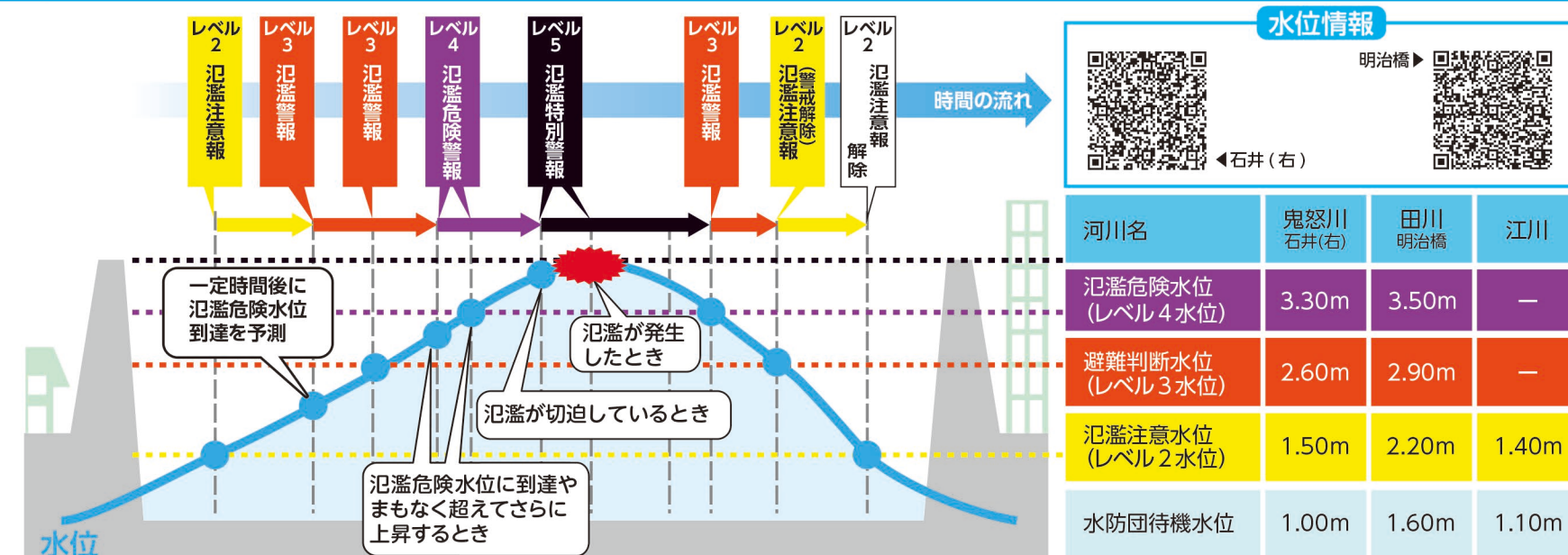
次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をとまなう雨域を線状降水帯といいます。



風水害

河川の危険水位と洪水予報

河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予報が発表されます。自治体はこの情報を目安にして、避難に関する情報を発令します。



雨の強さと降り方 [雨量の単位は1時間に降る雨量(mm)]

10～20mm未満 やや強い雨	20～30mm未満 強い雨	30～50mm未満 激しい雨	50～80mm未満 非常に激しい雨	80mm以上 猛烈な雨
ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる

風の強さと吹き方 [風速の単位m/sは、1秒間に進む距離(m)]

10～15m/s未満 やや強い風	15～20m/s未満 強い風	20～30m/s未満 非常に強い風	30m/s以上 猛烈な風
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険	何かにつかまっていけないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある	屋外での行動はきわめて危険

台風の大きさと強さ

台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s 以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

強さ	最大風速
強い	33m/s(64ノット)以上～44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上～54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

台風への備えチェック

